

全国高校総合体育大会

アーチェリー



千葉秀真
(登米総合産業高2年)

矢を放つ瞬間が気持ちよさそうだと思います。高校から始めました。

初めての全国大会、目標は予選通過でした。会場の雰囲気にもまれ、フォームが崩れてしまいました。点数が伸びず、予選を突破できませんでした。

来年に向けて、心身ともに鍛え、ベスト8以上を目指します。

全国中学校体育大会

柔道女子 70kg 超級



佐々木あすか
(佐沼中2年)

初めての全国で、緊張がほぐれないまま試合が始まり、体が動きませんでした。

自分から技を仕掛けようと思っていたのですが、逆に攻め込まれました。相手に投げられ、袈裟固めで押さえ込まれて一本負け。本当に悔しかったです。

来年は、個人、団体両方で全中に出場できるよう、練習を頑張ります。

全国小学校陸上競技交流大会

走り高跳び



加藤丈一郎
(中津山小6年)

市大会では2位でしたが、県で1位になれてうれしかったです。

全国では、県大会で出した自己ベスト1.34の更新を目指しました。結果は1.25で36位。空中動作など、全国のレベルの高さを肌で感じました。

中学校では野球部に入りたいです。早くレギュラーになれるよう頑張ります。

全国小学校陸上競技交流大会

走り高跳び



佐々木直実
(南方小6年)

入賞のボーダーライン1.30を目指し跳びました。踏み切りのタイミングが合わず、バーに突っ込むような感じで跳んでしまいました。結果は1.15で43位。自己ベストの1.23より、ずっと低かったので、悔しかったです。

中学校では、陸上部に入り、走り高跳びを続けたいと思います。

8月8日から12日まで、山口県岩国市中山湖特設カヌー競技場で開催されたカヌーシングル200メートルで、3位に入賞した。

「最後のインターハイ、のどから手が出るほど欲しかったメダル。3位だと分かった瞬間、これまでお世話になった監督や仲間、家族、中学時代のコーチなど、みんなの顔が頭に浮かびました」と喜びの表情を見せた。

大会直前、ベストタイムを更新するなど、万全のコン

ディションでインターハイに望んだ。しかし、シングル500メートルでは決勝に駒を進めるも、まさかの9位に沈んだ。インターハイ決勝独特の雰囲気にもまれ、本来の力を出せずにレースを終えた。

500メートル終了後、橋沼は工藤大将監督に質問した。

「200メートルは行けるでしょうか」

このままで終わらないう。しかし、500メートルの失敗から弱気になっていた。

「お前のパワーと技術は間違いない。国内トップクラス。

それを出さずに終われないだろう。200メートルで暴れてこい」

工藤は、論しつつもげきを飛ばした。

翌日開かれた200メートルシン

グルは、予選、準決勝共に1位で決勝へ。500メートル敗戦のショックは消えていた。

運命の決勝、ここでまさかの出来事が。得意のスタートで、パドル操作を誤り大きくバランスを崩す。順位はほぼ最下位に。

「やってしまったと思ったけど、腹をくくって開き直りました。尋常ではないペース

でパドルをこぎ続けた。

圧巻の追い上げ劇だった。スタート直後、トップと3艇身以上あった差を、見る見るうちに縮め、最後は1艇身まで迫った。勝負に「たら、れば」はない。しかし、「スタートが完璧であれば」と思わせるレースだった。

工藤は「ある意味、橋沼らしさが凝縮されたレースでした。ここであんな失敗するの

かって(笑)。でも、その後の追い上げはすさまじかった。教え子ながら鳥肌が立ちました」と目を細める。

ここまでの橋沼の道のりは、決して平坦ではなかった。中3時に腰を疲労骨折。その影響から、一時はカヌーを辞めることも決意した。5月に開かれたジュニア日本代表選考会では、有力候補に上げられながらも、結果を残すことができなかった。

「諦めないで続けてよかったです。でも、これで満足はしていません。10月に開かれる岩手国体では、絶対に日本代表に勝ちます」

すでに橋沼の目線は、国体の金メダルを捉えている。

「絶対あきらめない」



橋沼

Hashinuma Shin

新

登米高3年
中田町長崎

全国高校総合体育大会
カヌープリント競技
男子カヤックシングル200メートル

3位